

2014

Annual Report



フィリピン カオハガン島



Japan Dental Mission
NPO法人ジャパン デンタル ミッション



Contents

代表挨拶	01
地域紹介	02
海外活動報告	04
国内活動報告	20
海外活動参加感想	21
学術報告	32
国際交流	33
ジャパンデンタルミッションについて	35
協力者名簿	36
2015 年度海外活動予定	37
理事紹介	38
ヴァヌアツ共和国台風被害義援金のお願い	39



代表理事挨拶



このたび、南太平洋沖で発生した巨大サイクロン「PAM」が3月13日から14日にかけて風速80mの暴風雨を伴いヴァヌアツ共和国に襲来しました。

ヴァヌアツは人口約26万人で、国民の約70%の家屋が失われたとみられています。我々JDMが現在活動を行っているタンナ島が最も被害が多く、壊滅状態となっていて、通信網が寸断されています。又、以前我々が活動を行っていたマレクラ島のウリピブに住むジョン・カルキ氏とは全く連絡が取れない状態です。

「世界一幸せな国」だったヴァヌアツの街並みは一瞬にしてDoty Tumas! (現地語で、すごく散らかって汚いという意味) になり人々から笑顔を奪いました。

ほとんどのヴァヌアツの人々が家を吹き飛ばされ、家を失いました、あの屈託のない子ども達の笑顔がサイクロンにより奪われました。

私は、ニュースの報道を観て、大変心を痛めておりました。

日本に居て、一体何ができるのかと考え、まずは、義援金を集めることに致しました。

皆様から頂きました貴重な義援金は、現地での友人でヴァヌアツ親善大使を務めている、元フジテレビアナウンサーの相川梨絵様の夫の土山様、ポートビラ在住のメラネシアホテルの大数加様を中心に在ヴァヌアツ邦人が一丸となり、トタン屋根支給に遣わせて頂きました。多くの家が倒壊し、今求められているのは、安心して寝ることができる家・食料・医薬品です。とにかく、迅速な支援を目指しています。

一方、JDMが活動を行っているフィリピン共和国でも、2013年11月8日(金)レイテ島に台風30号(ヨランダ)が上陸し多大な被害をもたらしました。これらの悲惨な状況を視て、何が我々にできるのか?と考えるすぐに支援物資を集め、ランドセル・歯ブラシ・タオル・石鹸・帽子・鉛筆・文房具・運動具等を現地に送りました。

そして、昨年9月に医療奉仕活動を行いました。

レイテ島のミッション参加者は14名で現地レイテ島の歯科医師会の会長・副会長を含む10名のデンティストと現地村長、島民の皆様の協力のもと、共同事業として行いました。診療内容は、主に抜歯でしたが、想定外にスケーリング(歯石除去)の希望者が多くそれぞれが、協力仕合い精一杯診療を続けました、3日間で約900名の患者様の治療をすることができました。

このような想定外の災害は各地で発生しています。これも、地球温暖化の影響と考えられます。2015年7月に例年通りヴァヌアツに歯科医療奉仕活動に行って参ります。

これからもこのような災害が生じた場合、JDMとして迅速に対応して行きたいと思っております。今後とも皆様のご支援ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

JDM 代表理事 沢田宗久

活動地域紹介



ヴァヌアツ共和国



紹介: 83の島から成り立つ
 人口: 約24万人
 首都: ポートヴィラ (エファテ島)
 言語: ビシュラマ語、英語、仏語
 宗教: ほとんどがキリスト教
 寿命: 71歳
 生産物: コブラ (ヤシ)、牛肉
 活動地: マレクラ島、タンナ島
 通貨単位: バツ (1バツ約1円)

フィリピン共和国



紹介: 7,109の島から成り立つ
人口: 約8,857万人
カオハガン島の人口は約450名
首都: マニラ (ルソン島)
言語: フィリピン語、英語、ビサヤ語
宗教: ほとんどがキリスト教
寿命: 男65歳、女70歳 (平均)
生産物: バナナ
活動地: カオハガン島 (セブ州)





海外活動参加者の声

ヴァヌアツ・タンナ島 2014年7月12日～7月21日



(左から)
上崎 秀美 (D)
関根 淳 (D)
川本 麻央 (D)
沢田 宗久 (D)
Rory (ヴァヌアツ政府関係者) 古森 淳一 (V)
小西 あゆみ (DH)
大西 富子 (DH)

合計7名

歯科医師 (D)
歯科衛生士 (H)
ボランティア (V)

活動内容

7月13日 (日)

今回、メンバーの出発地が関西、関東、海外からとばらばらであったため、関西組は12日より香港経由でDr関根を除く6名が15時10分にポートビラに到着した。

空港でローリー氏とJICAメンバーの一人が迎えてくれ、メラネシアンホテルへ移動。

夜遅く関東からDr関根がホテルに到着し、メンバー7名全員が揃う。

を与えてもらい、移動時間がなく活動しやすい場所であった。

診療所は、バキュームの使用できるユニットが一台しかなく、ユニット数の不足する中での活動となった。

午後1名治療希望の患者が来院したため、治療を行った。

7月14日 (月)

Dr沢田、Vo古森は政府・保健省とミーティングの為、ポートビラに残り、他5名は11時に30分遅れでタンナに向け出発。タンナ11時35分着。迎えのドライバーが空港で待っていてくれ、荷物、機材ともに無事運ぶことが出来た。宿舎に移動後、Dr関根、DH小西は診療所に残り診療の準備をし、Dr上崎、Dr川本、DH大西は市場へ米、水、野菜、LPガスなどを買いに行く。

今年の宿舎はラナケル病院前の病院スタッフ用の宿



7月15日 (火)

午前の活動9時より診療所で、Dr上崎、Drラッセル、DH小西らが、治療、アシスト、クリーニングをする。Drラッセルのおかげで、細かな説明も患者にスムーズに伝えることができ、患者も安心して治療を受けているようだった。午前の外回りはDr関根、Dr川本、DH大西らがラナケル小学校へ行き、120名ほどの検診と、歯ブラシのドネーション、DH大西による歯ブラシ指導を行った。子どもたちの真剣に聴き入る表情に確かな手応えを感じることが出来た。

午後の活動14時よりDr川本、Drラッセル、DH小西らが診療所で治療を始める。義歯修理希望の患者が2名ほどいたが、材料がないため治療ができず、残念であった。また、本日最後のCR修復時に、コントラが動かなくなり、これ以降、CR修復は不可能となった。外回りは引き続きラナケル小学校へDr上崎、Dr関根、DH小西らが100名ほどの検診を行なった。この日ポートビラではDr沢田、Vo古森が、ウォータータンク寄付について保健省と話し合いが行われた。ローリー氏より、JDMへの感謝の念が伝えられ、またウォータータンクを寄付する小学校10校を選出するようにとの要請があった。



7月16日 (水)

9時よりDr関根、Drラッセル、DH小西らが診療所で治療を始める。外回りはDr上崎、Dr川本、DH大西らがロカタイ小学校へ行き、150名の検診と歯ブラシのドネーションを行なった。学校校長、先生は非常に協力的な姿勢を示してくれ、歯ブラシ指導はDH大西と先生の現地語への通訳もあり、英語のわからない生徒にも理解してもらうことができた。

14時よりDr上崎、Drラッセル、DH大西により抜歯、テンポラリーセメントによる修復、クリーニングを中心に診療



所の治療はとどこおりなく行われた。外回りはDr関根、Dr川本、DH小西らがラムカイ小学校へ行き、147名の検診と歯ブラシのドネーション後、DH小西は生徒ひとりひとりに直接歯ブラシ指導をしたいとの要望で、ドクター2名が前で説明をしている間、個別指導にあたった。

7月17日 (木)

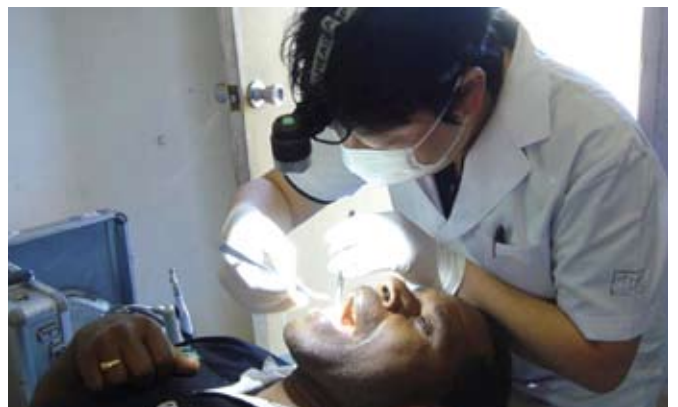
9時よりDr川本、Drラッセル、DH小西は診療所で治療を始める。10時過ぎにポートビラよりDr沢田が診療所に到着し、治療に加わる。診療用ではないチェアーも使用し、3名の患者を同時に治療することができた。外回りはDr上崎、Dr関根、DH大西らがユーミット小学校へ行き、116名の検診と歯ブラシのドネーションを行なった。

14時よりDrラッセル、DH小西が治療にあたり、Dr沢田、Dr川本は、ウォータータンク寄付校の選考のためタンナ島のエデュケーションオフィスへと向かった。8名の職員とともに、小学校の選考、島の子どもたちに不足する物資の確認などを行う。サニタリー用品、水筒、ポケットティッシュ、ホワイトボードなどが不足しているとのことであった。また、来年からはJDMの活動を、事前にラジオで告知してもらうようお願いをした。

昼食はDrラッセルを宿舎へと招き、昨年ボランティアとして参加した辻本氏より頂いたうなぎがふるまわれた。

外回りはDr上崎、Dr関根、DH大西らがツフー小学校へ行き、123名の検診と歯ブラシのドネーションを行なった。

17時頃、ヤスール火山に向け出発。天気もよく、道中は雄大な景色を存分に堪能することができ、帰りには満点の星空を眺めることもできた。



7月18日(金)

この日までに歯科検診は800名ほど行っており、歯ブラシ、カルテはすでに底を尽きていたため、予定していたイサンゲル小学校への検診は行わず、診療のみをメンバー全員で行なった。

検診の結果治療が必要と診断された子どもたちが、きちんと治療に来る姿を見て、また、ドクターの説明に熱心に聞く保護者の姿を見て、JDMの活動が確実にこの地に浸透してきていることを確信できた。



14時、多忙な中、関東からなんとか時間を作り参加してくれているDr関根は、飛行機の接続の関係で他メンバーよりひと足先に帰国した。

残ったメンバーは、治療と並行しながら診療所の片付けを開始する。

Dr沢田はレナケル小学校へ行き、奈良県の生駒ロータリークラブより預かってきた懐中電灯120個のドネーションを行い、校長よりJDM、生駒ロータリークラブ、また、以前文化交流をしていた南山本小学校校長宛てに、感謝状を頂いた。校長は、日本との文化交流を強く希望していた。



7月19日(土)

7時、Dr沢田は再び教育省との会議のため、ポートビラへ戻り、10時30分より、スタッフは休日返上でウォータータンク寄付等の話し合いが15時まで行われた。加えて政府は、ホワイトサンドエリアでのJDMの活動を強く希望しており、今後、活動範囲を広げるかどうか検討していく必要があると感じた。

9時より、DH大西が宿舎の片付け、Dr上崎、Dr川本、DH小西らが診療所の片付けを開始する。

今回、ボランティアメンバーのいない中、DH大西は、メンバーが気持ちよく働けるようにと、栄養バランスを考えた料理を毎日DH小西とともに作ってくれており、この環境の中で誰も体調を崩すことなく力を発揮することができたのは、2人のおかげである。

11時空港近くにあるホテルで食事をし、フライトまでの時間、今日までの疲れを癒すことが出来た。16時50分予定通りポートビラへ向け出発、ポートビラに17時30分到着。

夜はDr沢田の図らいで、ホテルの近くのレストランで食事をした。

7月20日(日)21日(月)

5時ローリー氏、JICAメンバーのひとりが空港まで送迎してくれ、7時20分過ぎに予定より20分遅れでシドニーに向け出発。10時10分頃シドニーに到着。関西組4名は香港経由でそれぞれの帰途につく。家に帰るまでがJDM。

Dr 川本麻央

2014年治療データ

	14日	15日	16日	17日	18日	総数
抜歯	0	13	25	22	26	86本
充填	1	10	24	17	13	65本
スケーリング	0	9	6	11	8	34本
チェックアップ	0	3	0	1	0	4本
受信者数	1名	30名	35名	35名	33名	134本



2014年小学校歯科保健データ

2014年	検診人数	DMF	DMFT指数	DMF歯数
レナケル	217	237	1.092	4.26%
ロカタイ	150	87	0.58	2.24%
ラムカイル	147	83	0.564	2.13%
ユーミット	116	78	0.672	2.62%
ツフー	123	32	0.26	0.99%
5校	753	517		



リーダー報告 上崎 秀美

今回の活動は7月12日から21日までで、参加者は歯科医師4名、歯科衛生士2名、ボランティア1名の7名での活動でしたが、往復とも各自バラバラで活動地点もバラバラなため全員参集は1日だけでした。

本隊4名は、香港、クアラルンプール経由の2班に分かれ次の経由地シドニーでメルボルンからの1名と合流し5名でポートビラに到着し、ニューカレドニア経由、フィジー経由で2名がポートビラのメラネシアンホテルにて合流し全員集合しました。

タンナ班は5名で、午後からの現地歯科医師ラッセル氏とともに6名体制で3名ずつに分かれ、レナケル病院、学校回りと活動しました。ポートビラ班は2名で政府関係者との懇談、ロータリー例会への参加などの活動でした。

タンナ島の医療、教育関係者は大変友好的で、先方よりリストアップ資料を渡され、期待の大きさに驚きました。

診療への協力、外回りのトラックの手配など、すべて順調でした。

最後には遠隔地のため病院まで来られない地域のための往診診療も依頼され、政府との約束のウォータータンク設置とともに来年への宿題となりました。

2014年の活動は、天候にもめぐまれ順調に推移し、体調不良も出ず、無事帰国できましたことを感謝しつつ See you next time!

代表報告 沢田 宗久

14日早朝にタンナ島へ先発隊が出発しました。私と古森さんが残り、9時半にポートヴィラ・ロータリークラブ（RC）の会長とお会いし、我々の奉仕活動の目的を説明し、水曜日の例会に訪問することをお伝えしました。

午後にヴァヌアツ政府の保健省に出向き、保健省と教育省の事務次官、JICAのメンバーを交えて9名でミーティングを行いました。

主な議題はウォータータンクのことでした。

ヴァヌアツは乾期と雨期に分れていて、乾期になると水不足に陥るので水を保存する必要があります。その為にウォータータンクが必要になります。ヴァヌアツ政府から我々にタンナ島の小学校に10基のウォータータンクの支援の要請がありました。ヴァヌアツは発展途上国で経済的に貧しいので外部からの援助に頼らざるを得ないのです。我々の最終目標は自立をサポートすることです。

水曜日にポートヴィラRCの例会に古森さんと一緒に訪問致しました。そのRCは、収入が少ないのですが、奉仕の精神が旺盛であり、わずかな資金でも地域の人々に喜んでもらえる活動をしています。国自体に資金的余裕がないので、学校にも寄付しています。

ヴァヌアツの出生率は現在世界でも上位であります。5歳～12歳の子どもは公立の小学校では授業料は無料ですが、12歳以上になると、授業料が必要になるので、中学校に行けない子どもがたくさんいます。

ヴァヌアツは83の島々から成り53のリーダー（グループ）があり、絶えず政権が変わっています。

17日木曜日よりタンナ島のレナケル病院に行きました、既に先発隊が活動を行なっていましたので、直ぐに合流して、治療を始めました。

活動は、病院での治療と外廻りの検診で、治療内容は、抜歯・歯石除去・充填・歯磨き指導等です。外廻りでは、各地域の小学校へ出向き、歯磨き指導と歯科検診をし、チェック後、治療の必要な子どもは保護者の許可を得て病院での治療を行います。



歯磨き指導では生徒達が皆、熱心に歯を実際に磨いてくれて、歯磨きの必要性を感じてくれています。

そして毎年、それぞれの小学校には歯ブラシ・文房具・運動具（サッカーボールなど）を寄付しています。

今回は、病院での治療と外廻りの検診を含め、延べ約900名の患者様を診ることができました。

又、レナケル小学校と日本の大阪府八尾市立西山本小学校、南山本小学校の間で8年前から文化交流を行っています。今まで、沢山の絵画などの交換も行いました。

今回、奈良生駒RCから手動式懐中電灯をレナケル小学校へ寄付しました。

校長先生が生徒に使い方を教えていました。生徒達は手に持って楽しそうにしていました。校長先生から感謝状を頂きました。

タンナ島での活動を終えてポートヴィラに着き直ぐに、ヴァヌアツ政府の保健省、教育省とのミーティングを行いました。

ここでは、タンナ島での活動報告とタンナ島での教育省とのミーティングの結果報告です。その中で、タンナ島のどの地域の小学校にウォータータンクを設置するかを検討した結果、10校を選びました。容量は6000リットルのタンクです。

来年、訪問時に設置できるよう検討するとのことでした。

今回も、実りある活動でした。これからも継続して行きたいと思いますので、皆様方、宜しくお願い致します。

フィリピン共和国・レイテ島 2014年9月10日～9月15日



上段左から

影山 龍市 (D) ・ 栗山 雅行 (V)
菅原 正之 (D) ・ 大西 富子 (H)
野上 敦史 (D)

中段左から

藤田 典子 (H) ・ 松井 笑 (H)
池田奈々子 (P) ・ 倉橋 朋子 (H)
今村 ちひろ (D) ・ 岩泉 有美 (D)
上崎 秀美 (D)

下段左から

富田 真仁 (D)
Mikmik (現地村長)
沢田 宗久 (D)
佐藤千咲 (現地コーディネータ)

歯科医師 (D) / 歯科衛生士 (H)
ボランティア (V) / 薬剤師 (P)

活動内容

9月10日 (水曜日)

関空出発組は7:45に集合しマニラ行に搭乗した。往路はレイテへの乗り継ぎ便がないため、アキノ空港第一ターミナル近郊のマニラエアポートホテルに15:30頃チェックインした。夕食時にミーティングし、明朝の出発時まで、参加者は全員合流した。

9月11日 (木曜日)

7:00にホテル出発し第3ターミナルまで送迎をしてもらう。タクロバン行の飛行機は9:55の予定だが、マニラ市内の道路事情と2週ほど前に第3ターミナルで爆弾騒ぎがあり、警戒が厳しいとのことだったので、早めにホテルを出発した。14:45タクロバン空港着。空港では現地でのコーディネイトをしていただくNPO Visayas Response Teamの佐藤千咲氏とCity Health of TaclobanのDr. Geongzonから出迎えをうけた。タクロバン行きは3時間近く遅れて出発したため、予定を変更しタクロバン空港から直接、今回の診療所となる『Barangay83, San Jose』に向かった。

注) Barangayはフィリピンの最小の行政単位のことです。日本的に解釈すると『村』にとらえて頂くとういと思います。カオハガン島も一つのBarangayです。

Barangay83では、村人総出での歓迎を受けた。特に子供たちがおめかしして、JDM参加メンバーのネームプレートを作成して待っていてくれたことには皆感動した。簡単なセレモニーの後、Brgy Captain (村長) のMikmik氏を交えてミーティングを行った。



Barangay側としては、Barangay Hall近くのバスケットコートに TENT をたてての診療を考えていたが、スクールがあると機材が濡れて故障するため、Barangay Hall を利用することになった。Hall 入り口からみて左の部屋を『抜歯』、右の大きい部屋を『スケーリング』『充填治療』にすることとした。Hall 正面の駐車場は『投薬部門』とフィリピン歯科医師会 (PDA) の Dr たちの治療スペースとし、Hall 横の TENT を『Check up』と待合場所にするようになった。

治療人数は1日300人 Barangay83から100名 近隣のBarangayから200名が既にピックアップされている。3日で計900人の治療を行う予定。PDA側からは10人のDrが参加するが、15:00には帰るとのことであった。15:00終了で300人の診療を行うことは困難なためJDMは延長して診療することとなった。

時間が大きくずれ込んでいたため、機材のセッティングやタクロバン市長への表敬訪問は延期し、沢田、栗山の両名がCity Health of Taclobanに表敬訪問を行うのみとした。

18:00ごろHotel Alejandroにチェックイン、ホテル近郊のローカルレストランにて夕食とミーティングを行った。

9月12日(金曜日)

7:30出発し8:00にBarangay Hall着。タクロバン市内の交通事情は劣悪である。排気ガスが充満する中、自動車、バイクの間をトライシクルやペディキャブ、自転車では歩行者までが縫っていく。事故が多発しそうに思うが意外に目撃しなかった。台風からの復興途中のため、建築現場や公共工事が多く見られると共に、ユニセフの仮設TENTも見受けられた。

JDMメンバーはすぐに活動の準備を開始。9:00からのオープニングセレモニーの前にセッティングを終了した。



9:00からのセレモニーでは、今年の台風犠牲者への哀悼の儀、City Health of Tacloban, PDA, Barangay83それぞれの代表の挨拶があり、JDMからも沢田代表理事が挨拶をおこなうとともに、フィリピン国歌斉唱が行われた。



9:30より診療開始。既に受付は大混雑している。治療現場での混乱を減らすため、抜歯患者の手首には『黄』充填患者には『赤』のテープをはり、番号を付与することとなった。Drたちは抜歯班と充填班に別れ、DHはスケーリング・クリーニング部門、Ph池田は投薬とチェックアップシートの回収と集計、Dr沢田、V栗山は全体の総括を行うこととなった。我々の想定よりも、抜歯希望者とクリーニング・スケーリング希望者が多くチェックアップ時のエラーもあり現場は混乱したが、午前中に110人の診療を行うことが出来た。12:00から、Barangay83住人の邸宅 1階で用意していただいた昼食を食べた。午後の診療は予定を繰り上げて13:00から行った。午後のはなれてきたためか、比較的スムーズに診療することが出来た。16:00に診療を終了した。この日は227人の治療を行った。

17:00にホテル着。18:30より、佐藤千咲氏を交えて市内のローカルレストランにてミーティングを行い、夕食をとった。ミーティングでは活発な意見がかわされた。最も議題に上ったのは『チェックアップ内容のエラー』と『治療内容の指示と患者の希望が異なっている』ことであった。上記については、明日よりチェックアップにDr沢田が参加することで改善していくこととなった。

9月13日(土曜日)

朝から雨が降り続けている。屋内診療を決めて正解だったことを、皆で話しながら診療所へ向かった。

8:00から活動開始。雨のため患者の数がすくないのでは?と思っていたが、我々が現場に到着したときには、長蛇の列が出来ていた。本活動にはJDM以外にもタクロバン市から60名近くが参加している。タクロバン市警察職員、Barangay83自警団が周辺の警備にあたるとともにBarangay83住人も患者の案内や雑用に従事している。また約75人の昼食費用は台風被害の義援金から負担しているとのことである。今回のボランティア活動に対する地元の期待と熱意をひしひしと感じ、身が引き締まる思いだった。

午前中の診療は問題なく進行したが、昼頃から雨脚が強くなり、昼食から戻ると階段を伝って2階から多量の水が侵入してきた。放置すると、コンプレッサーや変圧器が故障するため機械を椅子の上にあげるとともに、階段横のクリーニング機材を部屋の奥に移した。

Barangay Hallの屋根は去年の台風で破損している。V栗山が様々な廃材を利用して階段に雨水が流れ込まないように工夫してくれたおかげで、機械の故障はなかった。

午後は断続的にスコールになったものの、16:30に診療を終えるまでに前日をこえる299人の治療を行うことが出来た。また、夕方、機材からハンドスケーラー一式が見つかった。今回、想定以上にスケーリング希望者が多いにも関わらず、エアスケーラー1台鎌形スケーラーが3本しかなく、手のあいたDrはエキスカベータでスケーリングを行っていた。当地の歯石は日本とは比較にならないほど堅く、DHたちは腱鞘炎、筋肉痛と戦いながら除石をおこなっていた。他のハンドスケーラーが見つかったおかげで手のあいたDrも積極的にスケーリングに参加できることとなった。



夕方、タクロバン市長への表敬訪問が予定されていたが、市長が出張から戻っていないため中止となった。雨のため、ホテル併設のレストランにてミーティングを行い、夕食をとった。

9月14日(日曜日)

朝食をとるホテルレストランのテレビでは日曜のミサを中継している。診療所に行く途中でも、教会に入る人々を見かけた。前日の雨のため、昨日受付しただけで治療しないで帰った患者が来院すると思われる。診療所では、前日を超える数の来院者が既に長蛇の列を作っていた。正確かつスムーズに行うため、Dr上崎もチェックアップに参加した。

午前中は12:20まで治療を行ったが、充填班は30人ほど未治療のまま昼休みに入ることとなった。昼食もそこに13:00から午後の診療を再開した。後片付けがあるため、16:00に終了したが全員の努力がみのり、350人の治療を行うことが出来た。機器の作動チェック、在庫管理を行いながらパッキングを行った。



17:00より、昼食会場にてクロージングセレモニーが開催された。会場には軽食が用意されリラックスしたムードの中、各代表の挨拶が行われた。沢田代表理事がタクロバン市から感謝状と、被災したマングローブで制作したモニュメントを送られた。メンバー全員にも感謝状の授与があり、診療後の心地よい達成感の中、穏やかにセレモニーは終了した。

19:30より、レイテロータリークラブ会員の経営するイタリアンレストランにて夕食をとった。食事に先立つミーティングでは活動報告、個人の感想、反省、抱負、Dr沢田による総括コメントがあり最後の夜を楽しんだ。

9月15日(月曜日)

5:00にホテル出発。連日我々の送迎を担当してくれたCity Health of Taclobanの職員は今日も時間通り迎えにきてくれた。マニラには台風が近づいているという情報もあり心配したが予定通りタクロバン空港を出発した。マニラでは時間的余裕は少なかったが、成田、名古屋組も無事に搭乗できた。

関空組は19:00過ぎに到着し解散式を行った。『家に帰るまでがJDM!』を合い言葉にそれぞれが帰宅した。

最後になりますが、本活動を支援してくれたJDM支援者、NPO Visayas Response Teamの佐藤千咲氏、City Health of Tacloban、Barangay83, San Jose、フィリピン歯科医師会(PDA)の皆様がこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。

富田



治療結果

	12日	13日	14日	合計
抜歯	249本	310本	375本	934本
CR	71本	117本	123本	311本
セメント	25本	49本	24本	98本
SC	49人	84人	78人	211人
TBI	10人	15人	10人	35人
クリーニング	5人	14人	10人	29人
人数	227人	229人	350人	876人



リーダー報告 上崎秀美

今回のレイテミッションは、関空、名古屋、成田から参集しマニラで合流した14名の活動でした。

まず前泊の必要な行程で 預けの荷物の数量、重量も多く慣れないスタートでしたが、その疲れを吹き飛ばすかのようなお迎えと歓迎のレセプションにメンバー全員感激したようです。また、村長はじめ村民、歯科医師会関係者、警察、セキュリティ地域全体

での歓迎と協力に驚きました。活動内容は、上記報告書どおりでめざましい成果をあげられたことはメンバー全員の協力あってのことで感謝いたします。

いつも通り、活動内容もさることながら全員無事に帰国できたことを感謝しつつリーダー報告にかえさせていただきます。

フィリピン共和国 カオハガン島 2014年11月20日(木)～11月24日(月)



後列左から

上崎秀美 (D)
垣内満智子 (H)
出口沙耶 (H)
大西富子 (H)
川本麻央 (D)
今村ちひろ (D)

前列左から

トッペル、エッジ・ナノイ
沢田宗久 (D)
ヴァージニア

歯科医師 (D)
歯科衛生士 (H)

活動内容

11月20日(木)

7時30分 関西国際空港出発ロビーにて集合し、チェックインカウンターへ。

2013年11月にフィリピンを襲った台風30号で被害の大きかったレイテ島9月の活動の為、器材を持ち帰り、今回カオハガン島へ再度持ち込む為かなりの重量オーバーとなった。

その為、急遽貨物として預ける荷物をバラし、各自が分担して機内への持ち込みとした。

チェックインが無事に済み、沢田代表のお心遣いにより朝食をご馳走になった。参加メンバー皆で美味しく頂いた。

その後、私たちを乗せたPR407便は沢田代表のボランティアの心得である『かきくけこ』を胸に、また今回の活動でどんな笑顔に出逢えるかを胸に秘め、定刻より少し遅れ関西国際空港を離陸した。

13時20分頃(現地時間) ニノイ・アキノ国際空港(マニラ)へ到着。

入国審査をしていると…うん!? なにか見覚えのあるカバンがターンテーブルを回っている…まさか…

その回っているカバンはそのまさかだった

その後、何かの手違いでマニラを降りてしまった荷物は

『どうかセブまで…』と皆の気持ちを載せターンテーブルの中へ消えていった。

マニラからセブ島へ向け 定刻通り離陸し、18時頃セブ島へ到着した。

マニラで降りてしまった荷物は全て無事皆と一緒にセブに到着した。





セブ空港では東京メンバーのDr. 川本とDH出口、Dr. 上崎と無事に合流することが出来た。

セブ空港ではカオハガン島のトッペル氏、エマ氏、ゆうこ氏の『お帰りなさい』の心温かいお出迎えがあった。

21時頃カオハガン島上陸（満潮だった為母屋の近くまで船をつけることが出来た）

夕食の準備が出来るまでの間明日からの診療についての説明などミーティングを行った。

夕食後は各自自由行動ではあるが明日からの診療に備え就寝した。

11月21日（金）

7時30分 朝食

9時から診療が行うことができるよう早めに朝食を済ませ、バランガイホールへ向かう。

そのバランガイホールの前にはJDMが来島するのを待って下さっている方々が列をなしていた。列をみた私たちも診療の為の設営、セッティングを行った。

今回参加メンバーは少ないが時間通り診療を開始することができた。

さすがチームワークが良いJDMです。

13時頃予定より少し遅い昼食。

昼食にスープが出て、とても優しいお味に皆午前診の疲れが癒された。

また豚肉のから揚げも頂いた。その豚肉は話をお聴きすると、カオハガンハウスには冷蔵庫がない為『新鮮な豚肉』とのことだった。

日本では「新鮮な野菜」などという言葉は口にしたり聞いたりするが、『新鮮な豚肉』というのはあまり聞いたことがないので耳に新鮮だった。



14時 午後診開始

カオハガン島の笑顔の素敵な女性が来院。口腔内はJDMの技工士の先生が心を込めて作成した入れ歯が入っていた。その入れ歯を外してみると…

床をプラークで埋め尽くされていた。入れ歯の使用方法など媒体もあり、説明もしているのに伝わっていないことにとても悲しい気持ちになったのと同時に、今後の課題も見えたように感じた。

また沢田代表は彼女に入れ歯のお手入れ方法を説明し、納得した彼女は笑顔で帰宅していった。

また沢田代表が援助をしてセブ島で歯学部に通っているナノイ・エッジさんも午後診より手伝って下さり、沢田代表の治療などを見学し学んだ。

また昨日マクタン島でお祭りがあり、学校もお休みなので子供さんたちはマクタン島に残っており、いつもより穏やかな時間の中診療が出来た。

17時頃 本日の診療は無事終了。

夕食開始の19時頃までドラム缶風呂や島の散歩など各自楽しく今日の診療の疲れを癒した。

夕食後、今日の報告を各自行った。器材のトラブルもなく滞りなく治療が出来たとのことだった。

11月22日（土）

各自起床

8時頃 朝食

9時 診療開始

お祭りの為マクタン島へ行っていた島民や子供さんたちが昨晚帰島し、慌ただしい始まりとなった。

午前診、慌ただしいなか無事終了し、午後診の途中恒例の『チカラ水』

（カラマンシージュース）とココナツパンを頂きました。JDMメンバー皆慌ただしく過ぎる時間と治療の中『チカラ水』の美味しさと心の優しさに癒された。

17時過ぎ午後診無事に終了。

夕食まで昨日に引き続き各自自由行動。

19時頃 夕食と本日の申送り。申送りでは5倍速の給水タンクが破損したとの報告があった。

夕食後カオハガンハウスで勤務して下さっているスタッフの方たちへ沢田代表より帽子のドネーションがあった。色々なデザインがあり、どれも素敵な帽子で、スタッフの方たちは選ぶのに真剣でした。

11月23日 (日)

各自起床

8時頃 朝食

本日 最終日の予定をDr.上崎より説明。

9時 診療開始。

今日が診療最終日の為、島民以外の方たちもバランガイ
ホールの前に集まって下さっていた。

10時頃 チェックアップ終了。

治療が終了し次第、器材等の撤収作業に各自分担し入る。

12時頃 治療も撤収作業も無事終了。

さすがチームワークのJDM!! 予定通りです。

昼食後、恒例の島民の方たちとの大運動会です!!リレー、
飴食い競争に玉入れ、綱引き、みんな真剣勝負です。
大運動会が終了後、沢田代表より参加賞として歯ブラシ
が子供さんたちにプレゼントされ皆大喜びでした。



19時頃 夕食

夕食前、みんなで『たこ焼き』を作りました。日本ではた
こ焼きに当たり前のように紅ショウガが入っていますが、
もちろんカオハガン島には紅ショウガはありません。

そこで沢田代表はショウガを刻み代用する、さすがです!!
また、たこ焼きの鉄板に敷く油はもちろんmade inカオ
ハガン島。手作りココナッツオイルです。

とても香りが良く心にも身体にも優しいオイルです。

『沢田代表 特製たこ焼き』はカオハガンハウスのス
タッフの方たちや

JDMメンバー皆で美味しく頂いた。

夕食後 今回の活動での気づきなどの想いを皆一人ひ
とり発表した。

メンバーの発表の中で共通しているのは『参加させて頂
く事の幸せ』でした。

11月24日 (月)

各自起床

6時 今回の活動最後をヒーナイヒーナイcaféで メン
バー皆がコーヒーやマンゴージュースを頂き、出発まで
の時間を過ごした。

私たちの集合時間の6時少し前まで凄い雨に見舞われ
「これは船に乗る前も乗ってからもずぶ濡れになり着替
えが必要で大変だ…」と思っていたところ、集合時間前
あの大雨が止みました。「あの大雨はなんだったのか!?!」
さすがJDMです。メンバー皆の想いが空に通じたのだと
思います。

また楽しい時間は早く過ぎるもので、出発の時間と
なった。

ゆうこ氏の「行ってらっしゃい」の言葉。またカオハガン
ハウスの家族の一員の「ワンタ」が犬かきをしながら私た
ちをお見送り。

今回は干潮の為船が乗れるところまで海の中を歩き乗
船した。

色々な想いを胸にカオハガン島を後にした。

9時頃 セブ空港に到着

今回のメンバーとトッペル氏との最後の朝食を頂く。

朝食後 トッペル氏 東京チームのDr.川本 DH出口
と別れた

12時過ぎ マニラに到着

無事出国審査を済ませ、ボーディングタイムまで各自自
由行動。

14時50分 マニラを離陸

19時頃（日本時間） 定刻より少し早く寒い日本へ無事に到着。

到着後、沢田代表より今回の活動での労いのお言葉があり、解散となったが 『家に帰るまでがJDM』皆家族が待つ家路へと空港を後にした。



リーダー報告 上崎秀美

今回は、歯科医師4名 歯科衛生士3名の総勢7名でのミッションでした。

いつもどおり診療と、媒体啓蒙活動の予定でしたが地域のフェスティバルにあたり島民、特に子供たちが不在となっておりほぼ診療だけとなったことが残念でした。ただ、この人数で診療に専念できたのは結局よかったのかもしれませんが。最終日運動会は、子供たちも揃い全員で島民たちとの文化交流できました。

また、今回は天候には恵まれたのですが 風がなく非常に蒸し暑かったため体調管理には心配しました。幸いにも大きな不調もなく全員無事帰国できました。参加者の皆さんの協力に感謝しつつリーダー報告とします。

治療結果

	11/21	11/22	11/23	合計
EXT	102	88	47	237
スケーリング	12	26	16	54
セメント充填	8	49	17	74
Checkup	-	18	-	18
CR	5	25	11	41
その他	2	2	1	5
患者数	52	112	42	206

島別受診者	
カオハガン	63人
カオハガンスクール	29人
バガンアン	8人
クアミング	7人
カブルアン	5人
サンタロッサ	4人
バンダノン	3人
セブ	3人
ボホール	2人
無記入	1人
合計	125人

フィリピン共和国・カオハガン島

2015年2月6日～2月11日



上段左から

瀬野 耕司 (D) ・ 中辻 孝一 (T)
中井 知己 (T) ・ 佐伯 由依 (V)
岡本 朋子 (H) トッペル (ガイド)
大西 富子 (H) ・ 河内 光明 (T)
上崎 秀美 (D) ・ 瀬野 陽萌 (V)

下段左から

矢沢 優菜 (D) ・ 小松史枝 (H)
伊藤 晴夫 (V) ・ 沢田 宗久 (D)
梶井 友三郎 (D) ・ 三輪 愛子 (H)
望月 知未 (T)

歯科医師 (D)
歯科衛生士 (H)
歯科技工士 (T)
ボランティア (V)

活動内容

2月6日 (金)

今回の活動は、関西国際空港から12名、成田空港から4名の参加となり、内訳はドクター5名、技工士4名、歯科衛生士4名、ボランティア3名の計16名である。セブのマクタン空港で関西組と成田組が集合し、車と船に乗継いでカオハガン島へ出発。満月に近かったため、夜空も明るく、月光が海に反射して綺麗な夜景の中、22時過ぎにカオハガン島に到着。

夕食をとり、上崎先生のリーダーの下、明日からの活動内容と準備のミーティングを行った。12時に消灯となり就寝。

2月7日 (土)

朝食はJDMタイムで、通常よりも30分早い7時半からの朝食を準備してくれた。

カオハガンのスタッフに感謝です。9時から診療準備を行い、いよいよ診療がスタート。今回の主な目的はデンチャー作成とセットである。すでに14名の予約が入っている。午前中から多くの患者が待っており、チェック



を終え、抜歯または充填治療を行う。いつもの事だが、抜歯を希望する患者が多い。

ドクターは5名のため、1名がチェック、2名が抜歯担当、2名がCR担当に分かれて行いました。午後は患者も少なめであったが、カオハガン以外の島からの患者が来ていた。今日は夕食後にわたあめ製造機でストロベリー味やメロン味などの飴玉からわたあめを作り、おいしく頂いた。

2月8日(日)

今日も9時から診療を開始。診療所のバランガイホール前には患者さんが数人待機している。カオハガン以外の島の人が多いようだ。天候も良好で診療所の中も暑い。スタッフみんな、汗をかきながらの治療に取り組んでいた。そのなかでも笑顔が見られた。午後はいつもより患者が少なく、ゆったりとした診療であった。

夕食時に恒例のたこ焼き作りを行った。ボランティアチームがメインとなり、たこ焼きの準備をした。炭火焼で作ったたこ焼きはとてもおいしく、みんなにも好評で満足気だった。島で食べるたこ焼きは格別だ。



2月9日(月)

今日は月曜日のため、小学校での検診の日。小学校に行くチームと、診療所に行くチームに分かれ活動を開始しました。小学校へはドクター2名、衛生師2名とカメラマン1名の計5名が行き、子供たち120名の歯を



チェックしました。約2/3の子供は治療が要らなく昔に比べ良い歯をしている。39名の子供は診療が必要で、午後から診療を行った。

しかし、診療に来なかった子供も多く、これには対策が必要だと感じた。この日は小学校でイベントもあり、お揃いのピンクの衣装をまとって、中には口紅やアイシャドーをしている女の子も見られました。とてもお似合いでかわいかった。

また、午後には小学校でドネーションを行い、続いて衛生師によるTBIを行った。榊井先生が英語通訳してくださり、その英語を学校の先生がビサヤ語に訳し、面白おかしく伝えてくださり、盛り上がった中で終わることができた。デンチャーは今日が山場だったが、4名の技工士さんが頑張ってくれたため、当初予定していた患者数以上のデンチャーを作成することができた。夕食時のミーティングで、明日の最終日の打合せを行った。

2月10日(火)

今日は最後の診療日。午前中に診察を行い、数名の患者さんのデンチャーセットも終了。その後、機材の梱包や在庫チェックを行い予定通り昼前にすべて終了。

昼食を済ませた後は各自休憩を取り、海へ出かけたりのんびり休息をとった。3時半からは恒例の運動会を行った。

今回新たな競技として、ジャイアントバルーンを使用した大玉送りを試みた。リレー、スプーンリレー、玉入れ、大玉送りそして最後に綱引きを行い、盛大のうちに運動会を終了できた。今回も子供たちの明るく無邪気な笑顔が印象的だった。



2月11日(水)

朝6時に母屋に集合し、朝食は取らずに船に乗り込んだ。潮が満ちてきていたので海の中を歩かずに船に乗り込めた。マクタン空港でみんな揃って朝食を済ませチェックイン。関西組、成田組に分かれそれぞれ帰国。みんな無事に帰宅できた。

最後にボランティアの「かきくけこ」を記載しておきます。
「か：感謝、き：気配り、く：工夫、け：健康、こ：行動力」



治療結果

	大人	子供	合計
抜歯	195本	18本	213本
CR	29本	10本	39本
セメント充填	8本	8本	16本
デンチャー	23人	-	23人
デンチャー修理	3人	-	3人
リベース	2人	-	2人
検診(チェック)	2人	3人	5人
学校検診	-	120名	120名
調整	1人	-	
スケーリング	21人	-	21人
人数	136名	138名	274名

	合計
抜歯	213本
CR	39本
セメント	16本
サホライド	本
根治	本
SC	21人
義歯修理	3人
その他	1本
人数	274人

リーダー報告 上崎 秀美

今回のミッションは、関西から12名、成田から4名総勢16名で催行されました。2月の渡比の最大のテーマは義歯づくりです。4名の歯科技工士の参加もあり事前予約、現地来院、修理、リベース、微調整を加えると総数50床以上におよびました。食事、休息の時間も惜しんで義歯作製にあたってくださいました皆さんに感謝です。

また、今回参加してくださったトムさんの英語通訳により媒体教育もいつも以上に盛り上がり効果的だったようです。

例のごとく、歯科医師、衛生士、ボランティア、全員の協同作業により、成功裡にミッション完遂までサポートしていただいたことを感謝して報告を終えます。



国内活動報告

日 付	内 容	参加者
2014年8月4日(月)	船場ロータリークラブに於いて「ヴァヌアツ帰国報告」 7月12日～21日までの歯科医療活動の報告、卓話	沢田
10月22日(水)	八尾市立竹渚小学校に於いて、道徳の授業担当、「6年生対象 ヴァヌアツとの文化交流によって通じた国際理解について」	沢田 栗山 岡本
2015年1月26日(水)	国際ソロプチミスト大阪なにわに於いて、上本町6丁目都ホテルにて「ソロプチより寄贈頂いた、ヴァヌアツタンナ島母子医療センターのその後の運営・管理・実態を報告、及び、歯科医療活動報告、卓話」	沢田
1月31日(土)	大丸心齋橋劇場 大丸心齋橋店北館14階に於いて 演題「国際奉仕活動にかける想い」と題し、2660地区の ロータリークラブ1M7組10クラブ(約250名) 対象キーノート スピーチを行う	沢田
2月25日(水)	竹渚小学校に於いて外部講師として、6年生道徳の授業を担当 「ヴァヌアツでの奉仕活動について、並びに今後のラナケル小 学校との文化交流の取りくみについて。」	沢田 栗山 岡本
3月31日(火)	貝塚ロータリークラブ貝塚市二色南町、産業文化会館にて卓話 「生かされし我が人生に感謝～ボランティアの目的は自立心」	沢田



海外活動参加者の声

野上 敦史 (歯科医師)



念願であったJDMの活動に参加して、本当に楽しく、貴重な経験が出来たと、感謝しております。代表の沢田先生がいつも、「JDMの活動は楽しくないと」、常々仰っていました。

先生は、レイテ島への道中、過去のボランティア活動の写真を見せてくださいました。一枚の写真に、小学生に向けての道徳授業の風景がありました。黒板には、ボランティアの精神と題され、見返りを求めず、率先して、思いりの気持ちをもってと書いてあったと私は記憶しています。島民に向けての先生の挨拶の言葉の中には、「家族の様に」という思いやりの言葉が常々出てきていました。そしてまた、沢田先生を始め、JDMの皆さんは、本当に生き生きと、率先して診療から、準備、片付け、診療後の自由時間まで、能動的に動いてらっしゃいました。このJDMのボランティアの精神が、沢田先生が仰っていたように、活動を楽しむ、時間を楽しむということに集約されているのかもしれませんが。

参加する前、不安で肩に力が入っていた自分が、JDMのメンバーと活動を共にするに伴い、楽しもうと、自然体になれていた気がします。それは、沢田先生を始めとする、JDMのメンバーや、島民の皆さん、そしてこの場を準備して頂けた、このミッションに関わって下さった方々の協力があり、これだけ恵まれた環境、雰囲気ですべてのことに専念できたのだと感じています。本当にありがとうございました。

長年この活動に参加されている衛生士さんが仰っていた言葉に「政府や財団など多くの機関が足場を固めて下さってから、このJDMの活動」というものがありました。台風被害に被災された方々には、歯科医療だけではな

く、家や、お金や、仕事、様々なものを必要としています。

島を眺めていて気付いたのですが、私たちが、ボランティアに向かうずっと前から、多くの国や団体が、この島を支援していました。この地域に住んで、支援している日本人の方がいらっしゃいました。沢田先生が仰っていました。「視察を行い、現状を目の当たりにする中でJDMとして何ができるのか」と。私たちはJapan Dental Missionという名の通り、歯科医療を提供する団体です。その歯科医療という限定された支援ではありますが、私は歯科医師として、この団体に所属し、治療に当たらせていただくこととなりました。もし、私が個人で、この島に何が出来るのかと考えたときに、私個人が出来ることはとてもとても小さな事だと思います。1人の力が大勢となり今回のミッションは成功を収めることが出来たのだと感じています。と同時に、この場を与えて下さった、本当に大勢の方々の方が今回のミッションに繋がったのだと感じました。多くの国、財団、個人などがそれぞれに、この島の事を思い、目に見えないバトンが繰り返されながら、様々な分野で、様々な支援へと繋がっていているのだと感じました。

私個人だけでは、成せることは極々小さな事ですが、沢田先生のように、自分個人として何が出来るのかと考えながら、このJDMの活動で学んだ、ボランティアの精神を、日常の中でも活かしていけたらと思っています。

最後になりましたが、今回このような貴重な経験をさせていただいた、JDM、レイテ島の皆さん、今回の活動の準備を進めて下さった多くの方々、本当に有難うございました。

藤田 典子 (歯科衛生士)



先ずは、この度のレイテ島での活動に参加させて戴きました事、JDM御役員様及びメンバーの皆様方へ、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

又、活動中に不足・無礼が有りまして…申し訳ございませんでした。

9月11日に現地へ到着し目にした光景は、被災後10ヶ月も経過しているにも関わらず、長屋スタイルの TENT やスレートバラックの家が建ち並び、又その状況下での暮らしとは思えぬ「ハロー！」っと、明るい笑顔を私達メンバーに声掛けして下さる島民の方々の御姿でした。

何とも親日・友好的で、様々な思いが駆け巡り、胸を締め付けられました。

島民の方々の以前の生活がどの様で、現状問題は何か理解は出来ませんでしたが、生活優先の為、道路や建物の復興や衛生的な環境整備の必要性を感じました。

続いて、初めての活動に際しましては、何よりタクサンの嬉しい感動を賜りました！

迎え戴いた子供達の可愛い姿や、警察官の方々の細やかな気配り、地元の美味しい手料理、全てはパラディソ・キャプテンの心温まる「オモテナシ♪」、御気遣い・御配慮に感銘致し、心中で(涙)しました。

短い滞在では有りましたが、フィリピンに大変興味津々な私です！今後の日本には、素材的にも人数的にも人手不足が予測されます。

今まで以上に、様々な分野・色々な所でフィリピン国との交流を深くし、互いに助け合い共生出来る関係が築けるのではないかと、楽しみに期待したいと思います。

どんなに高価な物よりも、感動は人との交流から得るに勝る物はないのでしょうか…!!

最後に、素晴らしい礎を築かれ導いて下さいました沢田先生へ敬意を表し、又この様な機会を与えて戴き、厚く御礼申し上げます。

今回の経験で、私はタクサンの感動と新たな発想を与えて戴きました！誠にありがとうございました。

松井 笑 (歯科衛生士)



私がJDMに参加したきっかけは、以前からインターネットでJDMの活動を見ていて、いつか参加したいとずっと思っていました。

初めての参加で不安もありましたが、他の参加者の方たちがとても優しくても未経験の私を親切に教えてくれました。

レイテ島でも素晴らしい歓迎をしていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。

もっと英語を勉強して、現地の方たちとコミュニケーションを取れるようにしてまた是非参加したいと思います。6日間、とても素晴らしい貴重な経験をさせていただいたJDMのメンバーとレイテ島の方々に感謝しています。ありがとうございました。

池田 奈々子 (薬剤師)



今回初めてJDMのランティアとして参加させていただきました。以前から友人にこの活動について聞いたことはあったものの仕事の都合がつかなかったこと、また、歯科治療について何も知識のない私に何ができるのかという思いもあり参加できずにいました。

今回、タイミングが合って参加させて頂くことになりましたが、やはり自分にできることがわからず出発の直前まで私が行く意味があるのか不安でした。それとともに、何かはできるのではないかという期待も少しありました。たくさんの笑顔に出会えることも楽しみでした。

実際の活動で私は患者さんへの投薬とチェックシートの回収・集計をさせていただきました。最初に大変だったのが言葉の壁でした。英語力も乏しい私がどう伝えればいいのか、現地はワライ語。挨拶は前日に教えてもらってメモしていましたが、挨拶だけしてお薬を渡すにもいかず。まずは薬を渡すにいたって必要なワライ語を周りの方に教えていただき必死にメモしました。私の拙いワライ語も周りの人たちが助けられながら投薬ができました。

JDMの皆様をはじめ、現地のスタッフ、地元の皆さんに本当に支えられた5日間でした。

そして何より、現地の皆さんに名前を覚えてもらい共に活動できるということがどんなに嬉しくて幸せなことかを実感しました。私自身余裕がなくて、周りのスタッフの名前を覚えることができなかったことが残念でなりません。

私は、治療の終わった患者さんが持ってくるチェックシートを集める係をしていたこともあり、この治療を行った3日間に来た 900 人近くの患者さんにJDMの誰よりも多く接したと思っています。たくさんの方に出会いました。そしてたくさんの方にお礼を言われました。涙を流して来る子でさえ最後にはお礼と笑顔を見せてくれる子もいました。すべてをJDMの皆さんが直接受け取ることはできなかったかもしれないけれど、それらのお礼や笑顔は私自身ではなく、JDMのDrやDHの皆さんに向けられていること、JDMが行ってきたことに対しての答えなのだなあと思い、胸が熱くなる思いで受け取らせていただきました。

JDMの活動は大成功に終わったと思いますが、最後まで自分自身の活動に満足ができたかという点、そうではなくもっとできたことがあったんじゃないかと反省する日々がまだ続いています。

最後に気付けたことは、自分に何ができるか迷っていても、動かなければわからないこと、何かをしなければ始まらないんだということです。それはもちろん日本でも続けられることで、またレイテ島の皆さんに会える日まで、私が今いる場所でできることを始めて行きたいなあと思っていました。

世界共通で、笑顔には幸せがいっぱい詰まっている！私もそんな笑顔でありたいと思いました。

最後に、初対面にもかかわらず暖かく迎えてくださった沢田先生はじめJDMの皆様に 言葉では言い表せないほど感謝しています。今回の活動に参加できてよかった。出会えたすべての人に感謝です。ありがとうございました。

岩泉 有美 (歯科衛生士)



今回、初めて歯科治療のボランティア活動に参加させてもらいました。

私たちが訪れたフィリピンレイテ島のパラISO村は現地の言葉で「楽園」という意味をもちます。しかし、そこには一年前の台風の被害がまだ残っており、楽園とは呼べないような情景が広がっていました。

医療がまだ十分発達していないことや、治療を受ける機会がほとんどない人々の口腔内は日本では見たことのないような状態になっていました。そして、ここでは痛みのある歯は抜くという選択肢しかありません。初めて歯を抜く子どもたちが歯を抜く恐怖と葛藤している姿を見る

と、日本にいたら残せる歯なのに、とか、抜いた後どうになってしまうのだろう、ととても胸が苦しくなりました。

その後にJDMでは、抜歯という結果にならないように現地の方々にブラッシング指導や、なぜむし歯ができるのかということも伝え、予防処置も行うことで歯を守る活動もしていると聞き、とても感銘を受けました。痛いところを抜くだけという対処療法としてのボランティアではなく、原因除去のために何度も積み重ねて活動をしていくことの大切さを感じました。

また、現地ではボランティアで行っているのにも関わらず、盛大な歓迎やおもてなしを受け、恐縮に思うとともにとてもあたたかな気持ちになりました。

初めてボランティア活動をすることで、今までの日常の診療では経験できなかったものをたくさん見て感じる事ができました。始めは不安に思うことばかりでしたが、最後には来てよかったと思うことばかりでした。

そして最後になりましたがJDMのみなさん、初めて参加した私を優しく迎えてくれ、困ったときには手を差し伸べてくださいました。みなさんと一緒になければ今回と同じような気持ちは感じる事ができなかったと感謝しています。本当にありがとうございました。

影山 龍一 (歯科医師)



いくことができてよかった。その一言につきるとおもいます。まず参加を快く許可してくれた院長をはじめスタッ

フまた患者様に感謝するとともに、あたたかくむかえてくださったJDMのみなさん、ありがとうございました。

わたしは東日本大震災のときに宮城県石巻でJDMのメンバーと歯科治療ボランティアに参加していたことがありました。当時は何もかも手探りで、あっという間に活動期間が終わってしまいました。そのとき一緒に活動した藤田歯科衛生士から連絡がありレイテ島の話聴き、またJDMに恩返ししがたくて参加をきめました。

決めたのは良いとして海外に一人現地集合という経験は無く不安だらけの出発。未知の体験、感動の日々。飛行機の遅延もありかなり待たせてしまったのに、現地に到着してレイテ島のリンクや子供たちの出迎え。涙があふれて、まともに顔が見れないくらいでした。こんなに期待されていて、自分で何ができるのだろう。また三

年半前のように何も手につかなくなってしまうのではないか、という不安がよぎりましたが、沢田先生に機内で教えていただいたボランティア活動の四つの原則をおもいだしました。

- ①自分から進んで活動する（自主性、主体性）
- ②ともに支え合い、学び合う（社会性、連帯性）
- ③見返りを求めない（無償性、無給性）
- ④より良い社会をつくる（創造性、開拓性、先駆性）

自分にできる精一杯のことをやって、レイテ島の人たちに笑顔を返そうと考え、行動することにしました。

心の支えは、レイテ島の人々の笑顔とJDMの気の置けない仲間たち。（JDMの先輩たちを仲間たちと表現していかかわりませんが）笑みの絶えないリラックスできる雰囲気作りに。治療中も移動中も食事中もいつも笑いが転がっていました。『美人は疲れていても美人やね』とか『カッパちゃんのゆび』等々。数えたらきりがなくらい。

CHIKIちゃんや村長さんのところあたたまるとなしてや警備の方々の心遣い、現地の先生たちとも交流でき、信じられないくらい充実した活動期間でした。いろいろな方の助けをかりて活動できました。今後はIt's my pleasureといえるような活動をしたいです。

菅原 正之（歯科医師）



今回初めてJDMの活動に参加させていただきました。レイテでの初めての活動ということもあって是非参加しようと思っていましたが、いざとなると診療所のこととか毎月の支払いのことが頭に浮かび、なかなか決心がつかずにいました。しかし総会で、沢田先生からこの活動について、現地で直接CHIKIさんやスタッフと数回打ち合わせをされ、やっと今回実現したという熱い思いを聞かされるとすべてが吹っ切れました。

出発の9月10日、閑空で丁寧にパッケージされた多量の器材や物資を目のあたりにすると、数年にも渡るJDMの奉仕活動の積み重ねの長さを知り、自分が日々の現実から回避できず、悩んでいたことが恥ずかしくなりました。初めてで何ができるのだろうかと不安だらけでしたが、マニラに着いてからも、気さくに接していただき今回のチームの一員として働ける自信ができました。

2日目にいよいよレイテに渡りました。3時間遅れのアクシデントもありましたが、70年前、日米の激しい戦闘があった地に降り立つことができ、これも導かれた何かの縁として、自分なりに感謝の気持ちで一步を印しました。

レイテの人々は皆さん親切で、どちらがボランティアを受けているのかわからないくらいの歓迎でした。レイテでもこの日のために何日も前から準備を進め、期待されていることが分かり改めて身が引き締まる思いでした。医療活動では、悪天候にもかかわらず、大勢の住民の方に来ていただき、期待にこたえられるだけのチームであったと思います。私は手が遅い方ですが、皆様の助けもあり自分なりに達成感がありました。日本では充分残せる歯が、フィリピンでは抜くしかないという現実には大変心が痛みますが、この国の政策が少しでも向上するのを祈るしかありません。しかし、この活動を終えるにあたり、いつもお昼をごちそうになった家のルーシーさんの65歳の誕生日を、現地スタッフと皆で祝うことができ本当にいい思い出ができました。またセレモニーでPARAISO村長から沢田先生が記念のマングローブ盾をいただいたとき涙があふれ、日本では決して得られない、忘れた何かをつかみました。また機会があれば参加したいと思います。JDMスタッフのみなさん本当に有難うございました。

瀬野 耕司 (歯科医師)



カオハガンではC3は抜歯。日本ではありえないことです。今までこの活動に参加された方が経験したC3の歯を抜く事のやるせなさを身にしみて感じました。私も日本では抜くことない歯を多数抜きました。忘れられないのが小学校低学年の子供の永久歯の抜歯です。

子供の永久歯の歯根は未発達で抜歯鉗子をかけて何度か左右に揺さぶれば簡単に抜くことができます。もちろん日本でこの歳の子供の永久歯に抜歯鉗子をかけることはまずありません。

そんな歯を抜いた時の何とも言えない軽い感覚は今も私の手に残っており、しばらく忘れられないでしょう。この子供達の歯は乳歯が萌出したと同時に酸に侵され虫歯となり蒸発するように消えていったのでしょう。このような状態はその子供たちに限ったことではなく、多くの島民がたどる過程であり、そして、かなり若いうちに多数の歯を失い義歯を入れることも珍しくないようです。私が抜歯した子供の口にはすでに乳歯はほとんどなく、大きく穴のあいた永久歯がありました。そんな状態になるまで何ともなかったとは考えられません。歯髄炎や膿瘍で痛い思いをしたことでしょう。

又、そんな痛みは彼らが大人になって歯がほぼ朽ち果てるまで繰り返すかもしれませんし、場合によっては重篤な膿瘍となって命の危機があるかもしれません。

そんな痛みを経験したからか、診療の時、島民は悪いと思う歯を何本も抜くように希望します。島民にとって歯は虫歯になるのは当たり前で、痛みの原因になるだけの厄介物なのではないでしょうか。そうであれば非常に悲しいことです。

一方、出来上がった義歯が入り、自分の口元を鏡に写した後の笑顔は私にとって救いでもありました。この笑顔は歯があることの喜びを表している事に間違いありません。歯が人の体の一部であることは否定しようの無い事実であり、その存在価値も世界中同じであるはずですが、残念ながら、その価値はカオハガンでは日本より軽いと思われます。

しかし、義歯が入った時の笑顔は歯があることがいいと思う気持ちは日本もカオハガンも変わらないということの証拠です。

いつか、カオハガンで虫歯になっても虚しく抜歯されるのではなく、その歯が残す努力をされることが当りまえとなり、義歯ではなく自分の歯を見せて笑う島民が増えることを希望しています。

私も義歯をセットしました。

その患者の帰り際、お互いに笑顔で握手をしました。握手をした手の感覚も忘れられないものになりました。今回の活動に娘と参加させていただきました。皆さんが娘に優しく接して頂いたことに感謝しております。

瀬野 陽萌 (ボランティア)



18年間生きてきてこの5日間は私にとってとても大きな出来事となりました。ボランティアをすることも母や弟と離れて海外に滞在することも初めてでした。初めてばかりの旅では、驚くこと、気づかされることが多くありました。

現地の人々の親切さや人懐っこさ、何より笑顔を嬉しく思いました。その反面、ボランティアチームとして、沢田先生の診療の横から見る患者さんたちの口内の状況の

酷さを間近で見て、とても悲しくなりました。その人たちのため懸命に治療するJDMの皆さんを見、もっと力になりたいと強く思い、もどかしく思うこともありました。そして、今まで快適に生活していることを当たり前と感じていた自分に気づきました。感謝をすることは大切なことだとも教えてもらいました。

春から歯学について学ぶ自分にとって、絶対に何かが変わったボランティア活動となりました。連れてきてくれた父に感謝しています。言葉では表すことが難しい、得難い経験となりました。

また、この活動を通しての出会いもかえがたい出来事です。18歳のわたしにとって、憧れ、尊敬できる方ばかりでした。皆さんからもらった言葉は、ずっと心に残ると思います。

現地の人たち、JDMの皆さんとの関わり、活動によって、自分の歯科医になりたいという意思を再確認し、より強いものにすることができました。本当にありがとうございました。

小松 史枝 (歯科衛生士)



初めて参加してみて、想像はしていましたが驚きもありました。初めて見る現地の口腔内はとても良好といえる状態ではありません。日本で治療できる歯牙もカオハガンでは抜歯対象になる歯が多く、6才臼歯の生存率は極めて低いものでした。低学年の6歳臼歯も抜歯対象が多く、萌出して間もないのにムシ歯になってしまうそれが現状です。それを守るためにもセメント充填は大切なものと実感しました。少しでも長くその歯を使えるように、そ

の子の噛み合わせを守るためにも、早めのセメント充填をしてあげる必要性がありました。

抜歯の際、驚いたのは根の長さ！日本で見たことのない立派な長さ！日々魚を食べていることによりできている自慢のものであると思います。

しかし、私たちがいくら予防をしても治療をしても、島民の方々が普段の生活を見直さなければこの現状は変わることは難しいものです。島民がよく口にしていて飲み物はサイダーやコーラ、子供達はよくスナック菓子を口にしていました。その現状に驚きました。現状を把握し、少しでも改善できるように島民の方々に意識をしてほしいという気持ちが強く残ります。

この活動に参加して歯科衛生士になって良かったと感じました。衛生士でなければ、この活動に参加せずにはいたと思います。始め不安もありましたが、活動メンバーのおかげで毎日楽しくできました。歯科診療以外にも毎日楽しみがあり、6日間はあっという間に感じます。今回の経験で体験したこと、感じたことを今後活かしていきたいです。ありがとうございました。また参加したいです。

佐伯 由依 (看護師)



今回JDMカオハガン島ボランティア活動に参加しました。初めてのボランティア活動に加え普段は歯科と縁のない仕事をしているので、専門用語はもちろん何も分からない状態で不安な気持ちを抱えながらみなさんと合流しました。しかし、JDMの皆さんは本当に温かくて、気さくに話しかけてくださり、出会ってすぐに不安な気持ちはなくなり活動開始を迎えることが出来ました。

診療が始まると、全く知識のない私でも口腔内は良くない状態であることが分かりました。10歳程度の子供が永久歯を抜歯しなければいけないほど虫歯が進行している状態にある現実に驚きました。JDMの活動を通して口腔ケアの大切さ、口腔ケア方法を伝え継続してもらえるよう工夫することで口腔ケアを継続実行する島民が

少しずつ増えてきているということを教えていただきました。歯磨きという習慣がなかった国に習慣が少しずつ根付いてきて現在では治療が不要の子供もわずかにいることにJDMの活動の偉大さを感じ、私も少しですがその活動に参加できたことに喜びを感じました。

また、私は言葉が分からないことを心配していましたが、カオハガンの子供たちは通りかかると私の名前を呼んでくれたり、たくさん話しかけてくれました。カオハガン島の方は本当に笑顔が素敵で温かい気持ちになりました。私も気付けば自分から挨拶したり、目が合えば話しかけてみたりと日本では考えられない自分になっていました。カオハガンの皆さん人柄が大好きになったので帰国となりました。

今回の活動を通して自分の歯を自分で守れる環境にあるありがたさ、また当たり前ですが自分の歯を大切にしなければならないということを改めて感じました。カオハガン島・JDMの方々のような温かい気持ちを忘れずに今後の人生を生かしていきたいと思います。

この場を借りて、沢田先生をはじめJDMの皆さんに出会えて本当に良かったです！人生の宝物となりました。何も分からない私に丁寧に教えてくださり、温かく迎えていただけて本当に嬉しかったです。またお会いできることを楽しみにしています。本当にありがとうございます。

岡本 朋子 (歯科衛生士)



以前からJDMの活動に参加したいと思っていましたが、知り合いもないし、海外ボランティアということもあり躊躇していましたが、今回思い切って参加させて頂きました。

初めての海外・ボランティアだったので最初はとても不安で、戸惑うことも多かったのですが、メンバーの方々がとても親切で優しく、島民の方達もフレンドリーに色々話しかけてくれたので、とても楽しく過ごすことができました。

診療では日本みたいにライトやチェアーがないので、クリーニング等をしていると思っていただけに口腔内が見にくく、体勢もしんどくて、普段の日本の環境がとても恵まれていることを改めて感じました。

また、EXTがあまりにも多いことに驚き、衛生士として何ができるのだろうと考えさせられる日々でした。特に子供の6番を守るためにしてきた今までの活動の経緯などを聞くと、日本以上にシーラントの重要性を感じました。今回は小学校の検診に参加できなかったのですが、次回来る時は是非行ってみたいと思います。

梶井 友三郎 (歯科医師)



沢田先生がこんなに素晴らしい人達のグループを作っていることに感動しました。皆さんは楽しい人ばかりで、楽しく一緒に働くことができました。

難しい環境にもかかわらず、皆さんは一生懸命働き、文句一つ言いませんでした。

ボラティア活動をするということは戦争の中にいるようなものです。皆さんと一緒に働いている人達と共に強い結束を作っていました。

島民はとても優しく接してくれて、とても支えになりました。

私は貴重な友達を沢山作ることができました。

ボランティアの皆さんが頼まれてない時にさえも手伝っていたことを見て、私は感動しました。食べ物はとても美味しかったです。ビールとマルガリータはとても美味しかったです。ドラム缶のお風呂は楽しかった。運動会はおもしろかった。犬は夜中じゅう吠えてました。

また参加したいです。

三輪 愛子 (歯科衛生士)



初参加のJDM海外ボランティアでした。

この経験を通じて、知識として知っていた事を現実で目の当たりにし、触れる事が出来、それに対して限られた状況下で如何に医療ボランティアを遂行するかを工夫し考え続ける事が出来ました。

歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、ボランティアチーム改めてチームの協力の大切さを実感し、自身の知識、能力を見直す機会となりました。

ボランティアの「かきくけこ」感謝、気遣い、工夫、健康、行動力 普段から心にとどめて行動しようと思います。笑顔に溢れた、楽しい6日間でした。ありがとうございます。また、よろしくお願いします！

出口 紗綾子 (歯科衛生士)



今回海外ボランティア初参加でした。私は歯科衛生士になってまだ半年しか経ってなかったのですが参加させていただいて嬉しかったです。

フィリピンは生まれて初めて行くので、不安がありました。が逆に、自分の目で見るとフィリピンはどんな感じなのか探りを入れたかったので、一足先に入国してプラブラしました。

現地に着いてまず驚いたのは、フィリピンは英語が公用語だからみんなが英語を流暢に話せると思い込んでいたことです。私がアメリカで出会ったフィリピンの方々の英語力はフィリピンから来たばかりの人でもとても高かった。さすが公用語だけあるなあ!と思っていたのですが、実際現地の人は英語がわからない人がほとんどでした。

そしてそこらじゅうにいるストリートチルドレン。ドキュメンタリー番組では見たことがありましたが、実際に町で走り回っている子供たちの風景をみました。なぜか異様な風景というよりもそれがここの一部、周りの人もそれが日常という感じですべてが溶け込んでいました。屋台のお姉さんも彼らにちょくちょくご飯をあげたり、私の食べている横で石投げ喧嘩が始まったりぼけーっと珍しそうに私の事を見ていた子が、私と目が合うと、照

れ笑いを浮かべ、また走ってどこかに行ったり。観光バスが止まると、走って行って物を売る子たち。屋台のご飯はハエがたくさんかかっていましたが、おいしくいただき、無事お腹も壊すことなくすみました。

このような風景は戦後の日本はこんな感じだったと聞きました。

ボランティアスタッフと合流し、カオハガン島にて活動がスタートしました。私たちがくるのが慣れている感じでした。ニコニコ笑顔であいさつしてくれました。

子供たちの口腔内をみて驚いたのは、乳歯の虫歯が多すぎる!ということです。10代の子でも大人の歯、特に前歯が虫歯で無い子。とてもかわいらしい子なのにもったいないと思いました。

島にある雑貨屋さんなのですが、ほぼお菓子しか目につかないので、最初は駄菓子屋さんかと思いました。島の子供たちにとっては唯一の楽しみなのかなと思いました。でも、虫歯になりそうなお菓子ばかりです。私達が歯ブラシを持って外にいる子の歯を磨こうとすると、きゃーっと虫歯だらけの笑顔で逃げる子の手には、お菓子。ここにせめてキシリトールガムがあればなーと思いました。

私は東京の勤務先では、高級ビジネス街の、いわゆる「患者様」と扱いをうける人たちの対応をしてきました。超神経質で、痛み、怖がり、の日本の「患者様」たちに比べて、カオハガンの子たちの痛みに強いこと。そして椅子に座ったら覚悟もちゃんとできています。窓からもギャーギャー騒ぎながらも、興味津々で覗き込んでいます。7歳くらいの女の子が、窓から「ねえ、歯をみがいてよ」と私にかわいく催促してきました。そのまま窓越しに磨いてあげました。

混合歯列期の歯式がどうしても取れなくて、不甲斐なさを感じてしまいましたが(涙)今回私はとても貴重な体験をさせていただきました。また機会があったら是非参加させていただくか、何かしらの形でお手伝いできたらうれしいです。ありがとうございました!

中井 知己 (歯科技工士)



今回初めて技工士として参加させていただきました。はじめての海外ということでとても緊張しました。水が貴重だということや、まるで戦場のようだという話を事前に聞いたので、どんな治療になるのか楽しみでもあり不安でもありました。

カオハガンについてからは島民の人達が顔が会うと挨拶してくれて、おだやかな島だなというのが印象的でした。出してくれるご飯も日本風にアレンジされていてとても美味しかったです。

診療が始まると文字通り戦争で、次々と流れてくる印象に慌てふためいたり、模型を装着や即時重合レジンを盛ったのも、いつもとは少し違うやり方で斬新でした。ほとんど野外で作業していたので、風が強い時は材料をもってきたコンテナにもぐってアルコールランプの火を確保したり、直射日光がガンガンあたる時はブルーシートで覆ったりとサバイバルな技工ができてとても楽しかったです。患者さんに義歯を装着するところも直で見れたので、とても勉強にもなりました。

6日間の参加でしたが、あっという間だったと感じました。日本にいるときは日頃水をおしみなくつかってシャワーを浴びたり、無駄に電気をつけていたり、カオハガン島に行ってから日本での生活がすこしだけ変わったような気がします。

カオハガン島にいて一番悔しかったのは、言葉が話せないということでした。島民の人達は英語で話しかけてくれるのに、つたない英語でサンキューなど単語しか返せなくて、もっと英語ができれば会話できるのにと感じました。

次の機会にも是非参加したいと思うので、色々勉強して臨みたいと思います。

学術報告

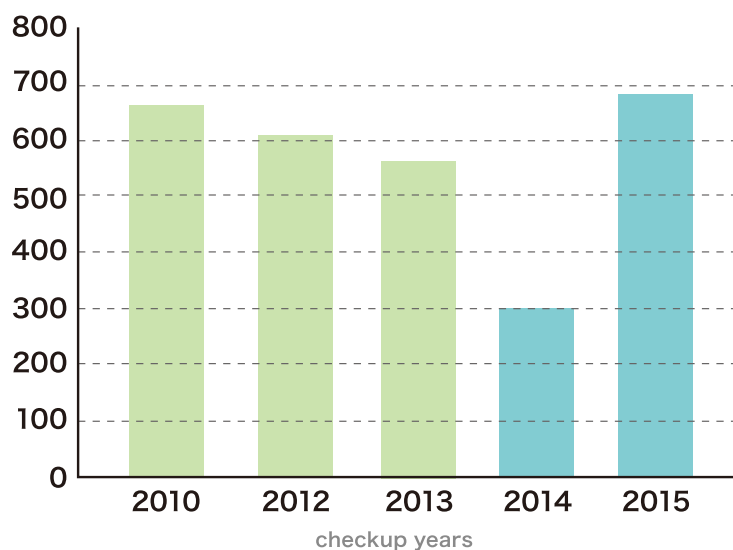
カオハガン島では、近年平均所得が向上し、甘味を摂取する機会が増加しています。

そのため齲蝕のリスクが上がる可能性が高いと考えられます。

フィリピンの平均が4.6（1998年）である事を考えると、カオハガン島のDMFTは3.6程度で維持されている傾向を認めます。

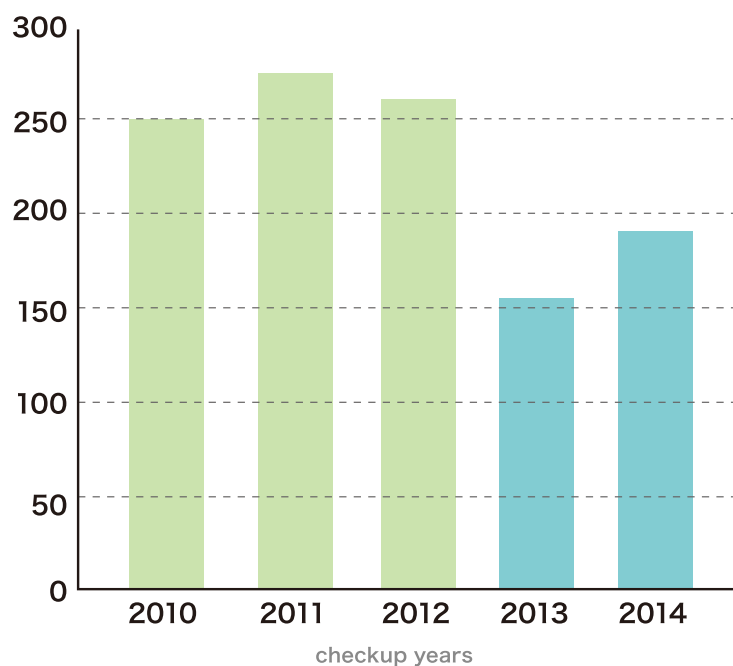
これはJDMによる長年にわたる口腔衛生教育の成果によるものではないかと思われます。

フィリピン



	2010	2012	2013	2014	2015
合計/DM	662	610	562	298	681
合計/D	510	339	429	256	552
合計/M	13	93	22	9	93
合計/F	139	178	111	33	36
検査人数	144	176	130	84	190
平均: DMF	4.6	3.5	4.3	3.5	3.6

ヴァヌアツ



	2010	2012	2013	2014	2015
合計/DM	251	275	261	155	191
合計/D	251	269	248	146	187
合計/M	0	3	13	6	2
合計/F	0	3	0	3	2
検査人数	246	298	336	230	440
平均: DMF	1.0	0.9	0.8	0.7	0.4



国際交流

八尾市立竹渚小学校とレナケル小学校との国際交流 「ヴァヌアツ共和国との文化交流から学ぶ」

八尾市立竹渚小学校
教諭 松元 加緒里

「一人一人の違いを認めて すてきな出会いに感謝して」 ～八尾市立竹渚小学校に転勤して～

今年度、長年勤めた南山本小学校から竹渚小学校への転勤が決まった。南山本小学校では、長年取り組みをされていた津崎先生と一緒に2年間、学年で活動させてもらっていた。今年度は、取り組みの大切さを感じ、私が引き継ぎをさせていただき竹渚小学校で活動をしている。小学校は、八尾市の西部に位置している。地域の方々、子どもたちにスポーツなど熱心に指導をしていただき、学校とも密着している。子どもたちは大変人懐っこく、いろいろなことに興味をもっている。

私が初めて、ヴァヌアツ共和国との国際交流をさせていただいて、人として一番大切なことは何だろう？ということ深く考えさせられた。5年生を担当することになり、この取り組みを本校でもやってみたいということを校長に相談したところ、是非、子どもたちに人としての生き方を子どもたちに学ばせてほしいと言っていた。学年は単学級で、沢田先生と相談しながら、いよいよ2学期から竹渚小学校での取り組みがスタートすることになった。

5年生の総合的な学習では、私たちを取り巻く環境や、社会では、世界の国についても学習していくのであるが、さまざまな教科とリンクさせて子どもたちに、自分自身を見つめ直し、今、自分には何ができるかということも考え、また、何が大切なのかを見抜く力も身に付けてほしいと願っている。また、沢田先生の長年にわたる医療ボランティアや青少年育成のための取り組みを通して、「自分たちはどう生きるべきか」ということを子どもたちに考えさせたいと思う。授業のなかで、何かを感じてほしいと思い、学期に1回の授業をお願いしている。

～沢田先生と子どもたちとの出会い～

1回目の授業はヴァヌアツという国を知るところから始まった。子どもたちは初めて見るヴァヌアツ共和国の様子に歓声を上げたり、驚いたりしていた。自然の様子は？場所はどこにあるのか？食べ物？暮らし？などいろいろ興味を持った様子であった。事前にパソコンでも調べていたので、より深く関心をもつことができた。日本とはもう全く異なる環境で暮らす子どもたちを見るのは初めてだった。

2回目の授業は、「本当の幸せとは何か？」ということに進めていった。事前に子どもたちには、今の自分にとって幸せなことは何かを書いていた。それを元に考えていった。子どもたちの幸せはさまざまで、食べることや寝ること、友だちといるときやゲームをしているときなど、他にもいろいろ書いていた。今回は、宮崎テレビが沢田先生のボランティアチームと同行し、活動の様子取材した映像を見せていただいた。現地の自然や生活、学校の子どもの様子などが紹介され、大変興味深く授業に参加していた。

ヴァヌアツという国は、物が豊かではないが、子どもたちの笑顔が素敵であった。この素敵な笑顔の背景には何があるのかという疑問も生まれてきた。世界で一番幸せな国にもなったことがある。



児童の感想

- わたしは、ヴァヌアツは世界一幸せな国だと知って、物がほとんどなくても周りの人たちがあたたかく、優しい気持ちで接することで幸せとを感じることを改めてわかりました。
- 私はこの話を聞いて、日本は物がありすぎるのじゃないかなと思いました。なぜなら、物が当たり前にあるから、ヴァヌアツの人たちより幸せと思う事が少ないのじゃないかと思ったからです。人それぞれの思い方もあると思うけれど、物を少なくして、小さな幸せも積み重なれば大きな幸せになると思うのでたくさんの幸せを感じられるようになりますと思いました。
- 幸せな国の1位がヴァヌアツだと聞いて、すごい国だなと思いました。物が豊かではないけど、人と人とのつながりがとてもいいんだなと思いました。
- 話を聞いて思ったことは、日本は物がいっぱいあり、ヴァヌアツは物が少ないけど、みんな何をやっていても楽しそうで笑顔が素敵でいいなと思いました。それだけ、みんなが優しいからなのかなあと思いました。
- 私は食べ物や服、物などを大切にしようと思いました。なぜかという、ヴァヌアツの国には食べ物や日本にある物がヴァヌアツにはなく、それを私たちは捨てたり残したりしていることが分かり、とてもぜいたくしすぎだなあと思いました。沢田先生の話を聞いて食べ物などの大切さを知りました。

終わりに・・・

子どもたちには生きていくなかで何が大切かに気付かせ、考えさせたいと思っている。さまざまな出会いや、いろいろな人の生き方の話をきいて視野を広げて学ぶということは大切ではないかと思います。子どもたちは2回の授業を受けて、よりヴァヌアツという国に興味を持っていました。物の大切さや人とつながるという温かさの大事さを改めて感じることはできたのではないかと思います。6年生でも、学期に1回の授業をお願いさせていただいています。更に、子どもたちの心の中に何か少しでも感じて、考えていけたらと思います。



ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿 革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

●ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。
また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。
島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで
歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

●絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに
絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い、文化の交流を図っています。
また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、
学業支援や健康促進を考えております。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に
運動会を行っています。

4. 青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うための
キッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・(株) アド・ダイセン
- ・アベ・ラベリング (株)
- ・オーエム歯材 (株)
- ・大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・大阪市立開平小学校
- ・大阪市立昭和中学校
- ・大阪市立高津小学校
- ・大阪市立玉造小学校
- ・大阪市立中央小学校
- ・大阪市立中大江小学校
- ・大阪市立南大江小学校
- ・大阪市立南小学校
- ・大阪船場ロータリークラブ
- ・大阪南太平洋協会
- ・大阪府歯科医師会
- ・尾崎歯材 (株)
- ・川西市歯科医師会
- ・関西国際交流団体
- ・関西学院中学部
- ・清原 (株)
- ・共栄社化学 (株)
- ・クリエイト (株)
- ・グラクソ
- ・スミスクライン (株)
- ・国際ソロプチミスト大阪-梅田
- ・コクヨS&T (株)
- ・サクラクレパス (株)

- ・沢井製菓 (株)
- ・笹野電線 (株)
- ・澤田歯科
- ・サンスター (株)
- ・(株) システムつう
- ・(株) ジャックス
- ・シンク (株)
- ・甚田会計事務所
- ・スポーツネットワークジャパン
- ・住之江歯科医師会
- ・スモカ歯磨 (株)
- ・セイコーエプソン (株) 労働組合
- ・セキセイ (株)
- ・全日本ブラシ工業協同組合
- ・大日本除虫菊 (株)
- ・大平工業 (株)
- ・太洋旅行 (株)
- ・嶽北歯科
- ・タナベスポーツ (株)
- ・株式会社ツサカ
- ・つるや (株)
- ・トキワ (株)
- ・有限会社トリビ
- ・ナカガワ (株)
- ・南総工業 (株)
- ・西澤歯科医院
- ・ニッタハウス (株)

- ・日本歯科医師会生涯研究課
- ・根来 (株)
- ・白水貿易 (株)
- ・ハグルマ封筒 (株)
- ・(有) ハマダデンタルサプライ
- ・(株) 林
- ・樋口歯科医院
- ・平田歯科医院
- ・不二印刷 (株)
- ・ベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ (株)
- ・蛍印刷 (株)
- ・モリタ (株)
- ・八尾市立西山本小学校
- ・八尾ロータリークラブ
- ・八千代オート (株)
- ・山貴産業 (株)
- ・ユー・エフ・オー (株)
- ・陽春園 (株)
- ・吉竹歯科医院
- ・DENTRADE
- ・Greenpath Corporation
- ・JICAヴァヌアツ支所
- ・NPOセンター
- ・TKX (株)
- ・UHA味覚糖 (株)

本年度寄付を頂いた皆様 (50 音順)

- ・赤木 宗成
- ・井神 有希
- ・伊豆 周久
- ・一柳 完治
- ・伊藤 孝治
- ・井本 啓子
- ・岩元 清子
- ・干支頭会
- ・大阪船場ロータリークラブ
- ・大西 輝夫
- ・大西 富子
- ・斧原 周子
- ・欠野 アズ紗
- ・片岡 清夫
- ・加藤 千恵子
- ・金本 裕光

- ・(株)郵宣企画
- ・菊池 由香
- ・北田 全基
- ・木村 キヨ子
- ・儀三武 壽美子
- ・工藤 武男
- ・高津 充雄
- ・国際ソロプチミスト大阪なにわ
- ・津田 一
- ・佐々木 孝子
- ・笹野 順一
- ・沢田 和子
- ・沢田 芳子
- ・澤田歯科
- ・三鼓 真司
- ・嶋 雅明

- ・JDM 有志
- ・須藤 脩鵬
- ・瀬野 洋子
- ・高丸 潔
- ・武田 康子
- ・田辺 宰治
- ・田坂 修
- ・辻本 供代
- ・津田 一
- ・豊原 正尚
- ・中西 謙一郎
- ・西村 知子
- ・西村 文延
- ・濱口 美香
- ・東 邦俊
- ・東 定子

- ・福井 淳一
- ・藤本 茂子
- ・古森 淳一
- ・溝畑 史子
- ・南太平洋協会
- ・森田 順子
- ・森本 ふみ子
- ・森山 朋子
- ・柳田 美紀
- ・山出谷 清
- ・山村 瑛子
- ・山本 和美
- ・横山 瞭一
- ・米川 真由美
- ・ロイヤルホテルヘルスクラブ
- ・若生 美智代



参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。

詳しくは、ホームページ <http://www.japandentalmission.org> をご覧下さい。

ヴァヌアツ共和国

チーム名	日 程	締 切 日
7月タンナ島	2015年 7月11日～7月20日	2015年 6月12日

フィリピン共和国

チーム名	日 程	締 切 日
11月カハガン島	2015年11月19日～11月23日	2015年10月20日
2月カハガン島	2016年2月10日～2月15日	2015年12月25日

募集人員

歯 科 医 師 …………… 約4名前後
 歯科技工士 …………… 約4名前後
 歯科衛生士 …………… 約4名前後
 ボランティア …………… 約4名前後

参加費用

	ヴァヌアツ共和国	ヴァヌアツ共和国
科 目	金 額	金 額
航空運賃 ＊1	約25万円前後	約8万円前後
滞在費	なし	なし
海外傷害旅行保険代	約1万円	約5千円
Tシャツ代 ＊2	3千円	3千円
合 計	約26万円前後	約8万円前後

＊1：航空運賃は時期により変動します ＊2：持っていない方のみ



理事紹介

代表理事

沢田 宗久 澤田歯科 院長（歯科医師）

副代表理事

栗山 雅行 ベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ（株）
代表取締役

理 事

河内 光明 澤田歯科（歯科技工士）

上崎 秀美 （歯科医師）

田中 良明 上がり口歯科医院（歯科技工士）

小西 あゆみ 大谷歯科（歯科衛生士）

吉井 照子 ボランティア

富田 真仁 富田まひと歯科 院長（歯科医師）

島 猛 上がり口歯科医院（歯科技工士）

橋口 敦 有限会社 ファイン 代表取締役（歯科技工士）

ヴァヌアツ共和国台風被害・義援金のお願い

このたび、南太平洋沖で発生した巨大サイクロン「PAM」が3月13日から14日にかけて風速80mの暴風雨を伴いヴァヌアツ共和国に襲来しました。

ヴァヌアツは人口約26万人で、国民の約70%の家屋が失われたとみられています。多くの住居の倒壊、水と衛生状態の劣悪化や医薬品の不足、被災した子ども達は6万人とも8万人とも言われています。

私は32年前からヴァヌアツ共和国に於いて継続的に歯科医療奉仕活動を行っています。我々のNPO法人のJDMが現在活動を行っているタンナ島が最も被害が多く、壊滅状態となっていて、通信網が寸断されています。

「世界一幸せな国」だったヴァヌアツの街並みは一瞬にしてDoty Tumas！（現地語で、すごく散らかって汚いという意味）になり人々から笑顔を奪いました。

日本に居て、一体何ができるのかと考え、まずは、義援金を集めることにいたしました。

義援金の振込先は下記の口座にお願い致します。取りまとめまして現地に送金いたしますので、宜しくお願い致します。

皆様から頂きました貴重な義援金は、現地での友人でヴァヌアツ親善大使を務めている、元フジテレビアナウンサーの相川梨絵様の夫の土山様、ポートビラ在住のメラネシアホテルの大数加様を中心に在ヴァヌアツ邦人が一丸となり、トタン屋根の支給に使わせて頂きます。

多くの家が倒壊し、今求められているのは、安心して寝られる家・食料・医薬品です。

とにかく、迅速な支援を目指します！！ 今後とも宜しくお願い致します。

感謝

NPO法人ジャパン・デンタル・ミッション(JDM)
代表理事 沢田 宗久

振込先 : 三菱東京UFJ銀行
支店名 : 心斎橋支店
口座名 : トクヒ) ジャパンデンタルミッション
口座番号: 普通 4769959



フィリピンカオハガン島



2015年6月13日 発行 発行者：NPO法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085 大阪市中央区心斎橋筋1-5-28 心斎橋コアビル 沢田歯科内

TEL：06-6252-0118 FAX：06-6641-5572

URL：http://www.japandentalmission.org E-mail：info@japandentalmission.org

*本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを強く禁じます。